

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立熊西中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

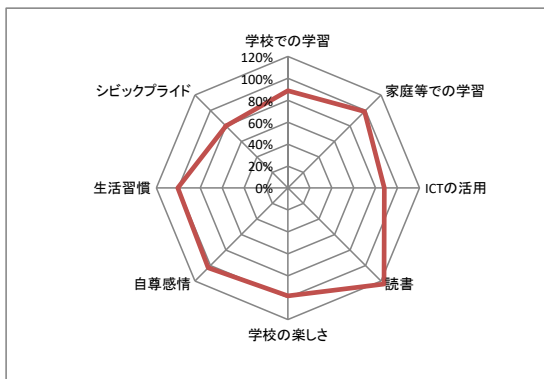
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で全国平均を上回っている	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を書く問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率は良好である	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	関数での記述や、四分位範囲などは、よくできている。特に累積度数が全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	証明を振り返って読み取る問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	ほぼ全国平均並みではあるが、自分の考えとその理由を書く問題等の正答率が全国平均を下回っている	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題	
	努力が必要な問題	英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・ 生徒は読書が好きで、本の貸し出し状況は良好である。 ・ 日本や地域に対して誇りを持ち、他国や他地域の人にもっと知ってもらいたいと思っている生徒があまり高い特徴がある。 ・ 話し合い活動や自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表することの体験が少ない。 ・ 「家庭学習においてICTを活用している」の割合が低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ タブレットを使つての授業を増やすようにする。
- ・ 授業中に思考・表現する活動を位置づけ、生徒が自分の考えを伝え、話し合うようにする。
- ・ 道徳の地域愛の単元で、具体例を挙げながらシビックプライドを醸成するようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 読書は、これまでの取り組みを継続して、高い興味・関心を維持していく
- ・ タブレットでの学習サイトやアプリの活用を通して、家庭学習でICTを使う機会を増やすように促す。